

教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告（1 / 5 ページ）

種目(教科等)【 書 写 】

項 目	教科書名(新編 新しい書写) 会社名(東 書)
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○字形の仕組みを理解するために、「全体の整え方」「部分の整え方」「部分と部分の組み立て方」の三つの柱で、色分けや赤の点線などによって示している。</p> <p>○目的や必要に応じて、楷書と行書を選んで書く能力を育成するために、場面に合った書き方や使い分けを話し合わせる教材が設定されている。</p> <p>○日常生活の中で効果的に文字を書く能力を育成するために、その目的や工夫について考えさせる教材が設定されている。</p>
特 色	<p>〈基礎的・基本的な知識技能を習得させる工夫〉</p> <p>○教材ごとに目標が示されている。目標達成のための「学習のポイント」も簡条書きで説明されている。</p> <p>○毛筆教材では、筆使いについて朱墨と薄墨で視覚的に表現され、手本の横に「書くときのポイント」も示されている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</p> <p>○学習の目標と自分の課題を確認し、課題を意識して練習に取り組むように工夫されている。</p> <p>○単元の終わりの「生活を広げよう」や、「効果的に書こう」という単元で、掲示物や年賀状の書き方、ノートの書き方や絵はがきの書き方、ポスターの作り方なども示され、日常生活に生かせる書写活動が設定されている。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</p> <p>○学習の進め方が「調べよう」「確かめよう」「広げよう」という三段階の形で示されている。</p> <p>○「振り返ろう」で、「できた=○」「もう少し=△」を記入し、目標が達成できたかどうかを自己評価できるようになっている。</p> <p>〈国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫〉</p> <p>○「生活を豊かにする文字」という単元を設け、職場訪問や防災訓練を題材とした手紙の書き方・メモの取り方・新聞の書き方・原稿用紙の書き方、掲示物やポスターの書き方なども教材として取り上げている。</p> <p>○毛筆の学習によって、硬筆では気付きにくい文字の書き方を身につけ、硬筆での書写に生かせるように、毛筆教材の後に関連する硬筆教材を配置している。</p>
	<p>資 料</p> <p>○姿勢や筆記具の持ち方などが、写真やイラストを使って示されている。</p> <p>○「しよしゃのたね」として、用紙・用具の製造過程や身の回りの文字などが写真で示されている。</p> <p>○巻末に「資料」がまとめられ、書式や漢字の書体の知識などが図表や写真で示され、「常用漢字表」「人名漢字」は楷書・行書の両方が示されている。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○毛筆手本の中心線の上下に記号があり、筆使いのポイントが、記号・点線・矢印・朱墨・薄墨の濃淡などで、また、字形が点線などを使って視覚的に表現されている。始筆を「トン」、送筆を「スー」、終筆を「ピタッ」と表示している。案内役のキャラクターが話しかける形で、ポイントなどが示されている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○B5より横が長いA4の判型である。巻頭に「これから学ぶこと」として、各学年の学習内容のポイントや学習の進め方が示されている。主に、毛筆の学習で気づいたことを生かして硬筆の学習をする構成になっていて、自己評価で学習内容を再確認する形になっている。それぞれの単元の中に教材に関連した話題のコラムが掲載され、巻末にも書式ごとの書き方の例や「書写テストに挑戦」などの資料がまとめられている。</p>

教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告（2 / 5 ページ）

種目(教科等)【 書 写 】

項 目	教科書名(中学校 書写) 会社名(学 図)
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○字形を整えて書くために、文字の形と部分、筆順に注意して書くことを赤の点線や矢印、筆の動きを朱墨や薄墨を用いて、視覚的に示している。</p> <p>○「行書・楷書を選んで書こう」という課題が設定されていて、目的や場面に合った書体を考えさせるようになっている。</p> <p>○身の回りの様々な場面での、いろいろな筆記具の活用の仕方、効果的な文字の書き方を具体的に示した教材が設定されている。</p>
特色	<p>〈基礎的・基本的な知識技能を習得させる工夫〉</p> <p>○教材ごとに目標が示されている。文字の形や筆順については、赤の点線や矢印等で、筆使いについて穂先の動きなどがわかるような工夫がされている。</p> <p>○毛筆での基本的な点画の筆使いは、朱墨の濃淡で穂先の動きがわかるように示されている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</p> <p>○毛筆学習で、試し書きと手本とを見比べて、自分の課題を見つけて練習し、その成果を生かして硬筆の学習に取り組めるように工夫されている。</p> <p>○3年生の「書写を生活に生かそう」で、修学旅行を題材とした新聞、職場体験を題材とした手紙、文化祭や委員会活動の掲示物、年賀状・荷物の送り状・エメールなどの書き方が教材として取り上げられている。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</p> <p>○学習の進め方が、「試し書き」「練習」「まとめ書き」「硬筆で書く」という四段階の形で示されている。</p> <p>○目標に沿って何に注意して書くかが示され、最後に「振り返って…」で目標が達成できたかを自己評価するポイントが示されている。</p> <p>〈国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫〉</p> <p>○修学旅行や卒業式、職場体験、文化祭などに関連した題材が取り入れられ、「枕草子」や「少年の日の思い出」などの文学教材も題材となっている。発展教材として篆刻も取り入れられている。</p> <p>○単元ごとに、毛筆の後に「硬筆で書いてみよう」が設定されていて、毛筆で学習したことを生かして硬筆の学習に取り組むようになっている。</p>
	<p>資 料</p> <p>○姿勢や筆記具の持ち方などが、写真で示されている。</p> <p>○「書写の窓」で、書体や筆の製造過程などが写真や図表で示されている。</p> <p>○巻末に「資料編」で、書き文字と活字との表し方の違いなどが示され「漢字一覧表」（常用漢字）が行書で示されている。また、学校内外の社会的活動に関わる書写事例が提示されている。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○毛筆手本の中心線の上下に記号があり、字形を示す点線や筆順を示す数字などが赤で示されている。また、筆使いや穂先の動きが視覚的に表現されている。全ての手本が半紙の原寸大で示されている。筆や鉛筆のキャラクターが話しかける形で吹き出しに学習のポイントなどが示されている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○B5変形（横が少し長い）の判型である。巻頭に学習の進め方が示されている。単元ごとに、毛筆教材がはじめにあって、見開き2ページを使って手本が示されている。終わりに「硬筆で書いてみよう」が設定され、毛筆での学習を生かして硬筆に取り組み、学習内容を確認する構成になっている。教材に関連した話題のコラムも掲載され、篆刻などの発展学習も示されている。巻末には、楷書や活字についての資料がまとめられている。</p>

教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告（3 / 5 ページ）

種目(教科等)【 書 写 】

項 目	教科書名(現代の書写) 会社名(三省堂)
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○楷書、行書の基本点画を、朱墨と薄墨を用いて筆の穂先の動き、筆圧について図版を提示することで、毛筆の筆使いのポイントが示されている。</p> <p>○楷書と行書の違いや場面によってどのように使い分けしたらよいかを話し合わせ、効果的な活動例を提示している。</p> <p>○巻頭教材で、日常的な文字や様々な書字場面を示し、活字と手書き文字の違いを比べるなどし、相手や目的・場面を考えて書くことを意識づけようとしている。</p>
特色	<p>〈基礎的・基本的な知識技能を習得させる工夫〉</p> <p>○教材ごとに目標、課題が示され、生徒に考えさせ、発見させてから、毛筆、硬筆で確かめて書く構成をとっており、知識を習得させるようにしている。</p> <p>○毛筆では、筆使いについて筆圧や穂先の動きを黒と朱の墨で示し、点線等でポイントを加えて解説している。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</p> <p>○各単元とも、「考えよう・話し合おう」「書いて確かめよう」「振り返ろう」という学習過程を柱にして編集されているだけでなく、キャラクターによるポイント解説を用い、課題を意識させて取り組ませるようになっている。</p> <p>○各学年、「学習のまとめ」「生活に生かそう」という教材を配し、基礎的・基本的な内容を振り返りながら、場面に応じた書体を書く力の育成を図っている。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</p> <p>○「学習の流れ」として、「学習の見通しをもつ。学習する。学習を生かして主体的に書く。」という学習の進め方を説明している。</p> <p>○各教材末に「振り返ろう」を示し、学習目標と照らし合わせて、自分の文字を生徒が振り返ることができるようにしている。</p> <p>〈国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫〉</p> <p>○「生活に生かそう」「効果的に書こう」という単元が設定され、季節や年中行事に関連した題材、職場体験等の取り組みを題材にし、生活や書写との関連を図っている。</p> <p>○学習の見通しをもたせ、硬筆で字形や筆順をつかみ、毛筆で書いて確かめ、さらに硬筆で書いて確かめ合いができるように教材が組み立てられている。</p>
	<p>資 料</p> <p>○「望ましい姿勢と筆記具の持ち方」が、写真や絵を使って示されている。</p> <p>○巻末に「資料編」があり、「日常の書式」「文字の変遷・文房四宝」「書き初め」「自分の文字」等、随所に文字や書についてのコラム的資料を写真や図版を使って掲載している。</p> <p>○巻末には、「楷書・行書一覧表」が小・中学校ごとに示されている。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○毛筆手本の中心を記号で示し、筆使いのポイントを記号、点線、朱墨を使い、穂先の図版などで視覚的に表現している。考える時間と書く時間を紙面の背景色を分け、学習の流れを分かりやすくしている。案内役である中学生のキャラクターが、ワンポイントアドバイスを行っている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○B5の判型である。各単元の冒頭に目標を示し、「考えよう・話し合おう」という活動を設けている。各単元が、毛筆の練習で書いて確かめ、次に、硬筆のワークシートに書いて復習できるように構成されている。また、見開きで学習の流れを見渡せるよう、活動の構成とデザインが工夫されている。三年の末尾には、「三年間で学んだ書写技能」があり、中学校の書写活動を振り返らせることができる。</p>

教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告（4 / 5 ページ）

種目(教科等)【 書 写 】

項 目	教科書名(中学 書写)	会社名(教 出)
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○朱墨と薄墨を用い、筆順や筆脈の連続を意識できるように、番号や点線で表し、穂先の動きや筆の運び方を示している。</p> <p>○楷書と行書の比較表から特徴を学習し、学習活動等で生かすために、書く目的と書体・筆記用具・注意点等の工夫を話し合わせる活動例と作品例を示している。</p> <p>○日常生活に生かせるように、さまざまな書き表し方の作品例や写真等の資料を掲載している。</p>	
特色	<p>〈基礎的・基本的な知識技能を習得させる工夫〉</p> <p>○教材ごとに「目標」を示している。また、「目標」を意識しての「なぞり書き」を設け、文字のバランスを身に付けさせるようになっている。</p> <p>○毛筆作品の学習では、試し書きを硬筆で練習させてから毛筆の書き方に移行し、まとめ書きは硬筆で確認するように構成されている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</p> <p>○各学年の取組において段階を追って章立て、生徒にねらいを意識させながら取り組ませるように構成している。各資料には解説を加え、課題意識をもって学習できるように編集されている。</p> <p>○巻末の「資料編」は、書式や日常生活に役立つ資料を取り上げ、必要に応じて、いつでも活用できるものとなっている。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</p> <p>○「①目標を確かめよう②試し書きをしよう③考えよう④生かそう⑤まとめ書き⑥振り返ろう⑦学習や日常生活に生かそう。」という手順で学習が進められるように構成されている。</p> <p>○硬筆でなぞり書きや実際に書く箇所を設け、直接記入できるようにしている。また、「振り返ろう」では、自己評価ができるようにチェック欄を設けている。</p> <p>〈国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫〉</p> <p>○国語の授業や総合的な学習の時間、学校行事、日常生活で必要な事項を具体的な資料や写真を掲載することにより、学習したことを活用できるようにしている。</p> <p>○硬筆による試し書きとまとめ書きで毛筆の行書の特徴が確認できるように配置されており、毛筆と硬筆の関連を図っている。</p>	
	<p>資 料</p> <p>○姿勢、用具の置き方や使い方、筆記具の持ち方等写真を使って解説している。</p> <p>○用具の材料、作り方・文字の変遷が写真で説明されている。また、日本建築と「書」、社会で生きる文字などを掲載し、日常生活と文字の関わりを示している。</p> <p>○「漢字一覧表」は常用漢字を、小・中学校ごとに部分別で二通りの行書で示している。</p>	
	<p>表記・表現</p> <p>○毛筆手本の中心、筆順・濃淡・穂先の動きが図で示されている。仮名の字源を左側に配置し、平仮名、片仮名ともに筆順が示してあり、学習目標と学習の進め方・振り返りがマークで示してある。案内役のキャラクターが学習のポイントなど効果的なアドバイスを示している。</p>	
総 括	<p>○B5の判型である。巻頭では、「書く目的」に合わせて「どんな力を身に付けるか」を示している。見開き2ページで、一つの作品の目標に沿った書き方について配置されており、筆先が写真で示されている。国語の教科書に掲載されている作品やレポート等の日常に役立つ作例を掲載し、国語や他教科との連携を図っている。また、「あの人が残した文字」として、歴史上の人物や文学者の肉筆を紹介している。</p>	

教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告（5 / 5 ページ）

種目(教科等)【 書 写 】

項 目	教科書名(中学書写)	会社名(光 村)	
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○「字形の整え方」と「文字の大きさと配列」のポイントとなる事柄を、穴埋め形式にすることで、理解を促している。</p> <p>○毛筆の筆使いを写真で示したり、毛筆における楷書と行書の違いを見開きで比べたり、見開きのページを開いて行書の特徴をつかめるように工夫されている。</p> <p>○文字や文字文化への理解・関心を高める「コラム」が、各学年に配置されていて、古典文学や短歌・俳句を書いて味わう「季節のしおり」も収められている。</p>		
特色	内 容	<p>〈基礎的・基本的な知識技能を習得させる工夫〉</p> <p>○教材ごとに目標、課題を示し、目標を意識して「なぞり書き」や書き込み式の確認箇所を設け、文字のバランスを身につけさせるようになっている。</p> <p>○毛筆では、筆圧や穂先の動きを濃淡ある朱墨で表し、毛筆で学習したことを生かして、硬筆を練習させるようになっている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</p> <p>○基礎編、学習編、資料編の三部構成になっており、発展的な学習をする際も、基礎的・基本的な内容を振り返りながら学習することができる。教科書に文字のポイントを書き込む欄があり、考えて書くことをねらい、構成されている。</p> <p>○巻末の「資料」編では、大判の手本や日常生活・学習場面での文字の例を写真や図版で示すことで、習得したことを活用させる機会を設けている。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</p> <p>○「学習の流れ」を、「①学習の見通しをもつ。②学習・活動に取り組む。③次の学習に生かす。」という流れで説明している。</p> <p>○巻頭に「中学校三年間の見通しをもとう」が設けられ、中学校三年間の目標が掲げられている。</p> <p>〈国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫〉</p> <p>○巻末の「日常の書式」で手紙などを題材にし、「活用のヒント」で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の言語活動等の例が示され、生活と書写との関連を図っている。</p> <p>○毛筆の筆使いを理解する学習の後に、「学習したことを生かして書こう」という硬筆教材を設定し、毛筆と硬筆との関連を図っている。</p>	
		資 料	<p>○「書くときの姿勢」と「筆記具の持ち方」等、写真を使って示されている。</p> <p>○巻末の「資料編」に、「日常の書式」「活用のヒント」「書写辞典」「書き初め」を、また、学年ごとに文字や書に関する「コラム」を写真図版と解説を交えて掲載している。</p> <p>○「常用漢字一覧表」「部分別漢字一覧」があり、楷書・行書で示されている。</p>
		表記・表現	<p>○毛筆手本の中心が記号で示され、筆使いのポイントが、始筆「トン」送筆「スー」終筆「トン」の表記で示され、点線、朱墨を使った二色使い、字形を示す線、筆の移動を示すマーク、穂先の図版で視覚的に表現されている。案内役である中学生のキャラクターが、吹き出しを使ってアドバイスをを行っている。</p>
総 括	<p>○B5の判型で、各単元の教材が見開き2ページにまとめてある。全体の約半分にあたる後半は資料編で、「日常の書式」「活用するヒント」を掲載している。各単元の冒頭に目標を示し、文字を書くポイントを学習の窓をヒントに考えて書き、基礎・基本を身に付けさせるようになっている。毛筆の練習後、硬筆を書き、復習できるような構成をとっている。コラム「季節のしおり」では、詩や短歌等を楷書や行書で書く活動も取り上げている。</p>		

